



小島 智恵 議員  
(政風クラブ)

**問**

(1) 2020年度からの次期学習指導要領による外国語教育の本格導入を前に、札幌市の小学校では、82校が運動会を午前開催とした。英語の授業時数確保が目的だが、保護者の弁当の負担(特に雨天延期)軽減などの事情もある。運動会のあり方も含め、本町の授業時数確保対策について伺う。

(2) 札幌市の中学校では、保護者から「かばんが重すぎる」との声を受け、「教室に置いてよい教具」を記した紙を配布し、「置き勉」を認めている。以下伺う。  
①教材など実際に重くなっているのか。子供や保護者から負担になっているとの声は。  
②子供の発達への影響と、今後のあり方は。  
(3) 今夏も猛暑が続く、国は公立小中学校に来年夏までにエアコンを整備する方針を示した。今年度、町では町立の保育所と幼稚園にエアコンを設置したが、小中学校での熱中症やその疑いで体調を崩す子供の実態と、熱中症対策は。

**問** 運動会の午前開催など、保護者のご意見を伺い、授業時数確保の対策を  
**答** 文部科学省が示す事例や管内状況を参考に、学校と授業時数確保について検討する

**教育長**

(1) 運動会は、心身の健全な発達や健康の保持促進、規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度を育てるなど、大きな教育的意義を持つている。文部科学省が示している事例や管内状況などを参考に、学校とともに適切な授業時数の確保について検討する。

(2) ①現在使用している平成27年発行の教科書と23年発行の教科書を比較すると、小学校の算数の教科書では、1割程度重くなっている。他の教科や中学校で使用している教科書も、ページ数の増加に伴い、同様に重くなっている傾向にあるが、紙質の改善により軽量化が図られている教科書もある。保護者から心配する意見が一部の小学校であったが、当該校では、時間割を見ながら持参する教材に配慮するなどの対応をしている。

②子供の発達への影響については、明確に示されたものはない。各小中学校において、日々の時間割に配慮するとともに、今後の国や道の通知に基づき適切に対応する。

(3) 平成26年度に小学校2校で6人、29年度は中学校1校で1人が熱中症やその疑いがあったとの報告を受けている。授業中も含めて、こまめに水分補給を行うよう、各小中学校に通知している。小中学校にエアコンは設置していないが、窓や教室を開放して風通しを良くしたり、扇風機を効果的に用いるなどの配慮をしている。

**再質問** 小中学校、学童保育所へのエアコン設置の考えは。

**答** 子供たちへの影響や必要性、国の補助の動向を見極めながら進めなければならない。

**問** 森林バンク制度の運用は

**答** 北海道の基本方針に基づき実施していく

**問**

所有者が手入れできない人工林を市町村が管理する森林バンク制度創設に向け、来年4月に森林経営管理法が施行さ

れる。2024年度からは、森林環境税(一人年額千円)が賦課される予定であり、以下伺う。  
(1) 管理できていない町内人工林は。  
(2) どのように運用していくのか。  
(3) 同法や財源に対する見解は。

**町長**

(1) 森林経営計画の定めがない私有林人工林599ha(約13%)、森林所有者にして295人分は、平成31年度から3年間実施する予定の経営管理意向調査により、実態を把握していく。

(2) 北海道の基本方針に則り、森林経営管理法に基づく経営管理意向調査を実施する。集積および集約化には、既存の制度のもと森林経営計画の変更により対応する。

(3) 森林環境税および森林環境譲与税の創設は、これまで手入れができなかった森林の整備が進み、森林資源の適切な管理による公益的機能が発揮される。林業の成長産業化による雇用の創出など、地域活性化にも大きく寄与すると期待している。

